

# NEWZ

of next windsurfing

photos by Taisuke Yokoyama  
text by TOKO

## 88年新島、夏樹21歳。 じぶんを、その将来を、信じようとし、 いきなりつまずいたじぶんを罵っていた。

飯島夏樹と、初めて会ったときのことを覚えている。88年初春の新島、マルイオニールのワールドカップだった。新島の、ある居酒屋で、ピヨン・ダンカベックとアンダース・プリンダルの対談をセッティングした。のれんをくぐると、発達した背筋を包んでびんと張った、ニールの白いTシャツの、大きな背中があった。夏樹だった。自分が目指すトッププロの対談を見学に来ていたのだ。逆三角形の広背筋をつまみ、すごいね、と声をかけると、夏樹はぎょっとして振り返り、ドーもですっ!、と快活に返した。

それは夏樹のプロデビュー戦だった。プレッシャーは大きかったと思う。その前年、夏樹は、国内全国レベルの大会への参戦経験もないまま、いきなり米国ゴージプロアマ・スラローム、アマクラスファイナリストとなり、大器と騒がれていた。新島である程度の結果を出して、ゴージでの劇的デビューがフロックではないと証明せねばならなかった。早くから新島入りしたがタフコンディションで道具を壊し、第一ヒートは微風用の板で出るしかなく、羽伏浦の強烈なビーチブレイクに巻かれて足首を捻挫し、夏樹のデビュー戦はあっけなく終わった。怪我でリタイアしても、夏樹はなお張り詰めていた。

あきらめざるを得ないのに、緊張を解くことができない様子で、すこし不憫に感じたほどだった。その年の5月、カリビアンツアーを皮切りにPBAワールドツアーに参戦、9月にはタリファ(スペイン)11月ジャパンサーキット優勝、翌89年4月サムタイムワールドカップに参戦、寛子さんと出会い、と夏樹の「物語り」は展開してゆく。

その日の新島からほぼ20年が過ぎる。写真家・横山泰介氏のもとに「なみある? サーファーズ・アワード2007」招待状が届いた。引き出しにしまい、なんとなくデスク回りを整理していると、引き出しの底に、コンタクトシート(写真セレクトのためモノクロフィルムのスリーブごと紙焼きしたもの)が見えた。出してみると、飯島夏樹の写真だった。それも、88年、新島での。「日本の大器」と聞かされ擡つたに違いなかったが、どこにも発表しなかったこともあって、夏樹を撮影したことじたい忘れていた。20年振りの「邂逅」。招待状を見ると、受賞者に、飯島夏樹の名があった…。横山氏は当時から、サーフィンフォトグラフィーの第一人者であったが、ウインドはほとんど擡っていないかった。その新島取材には、筆者(TOKO)がとくに依頼して参加してもらった。その筆者も、氏が夏樹を擡って

いたことは知らなかった。偶然以上のなにかを感じた横山氏は、ポートレート1点を焼き、アワードに出席される、寛子さんはじめご遺族に贈ろうと思った。そのセレクトを、相談されたのだが、他のどの写真とも似ていない、いちばん夏樹らしくない写真を選ぼうと思った。意外なほうが、ご遺族も楽しめると思った。この写真だ。アゴを手で支え、スカしている。夏樹は、ふつうはこんな顔はしない。しかし、と思われてきた。じつはとても夏樹らしいのでは。ことにあの日のかれを想うと。張り詰めて、じぶんは何ものかであると信じようとし、ときに自信を無くし、強がり……。

夏樹は「愛」の人だったと思う。博愛ではなく自己愛、それはナルシズムの対極にある、過剰な自己への期待、高すぎる設定ハードルゆえの、叱咤、わずかな自負、たくさん失望に満ちた、厳しいものだった。

88年新島、夏樹21歳。  
じぶんを、その将来を、信じようとし、  
いきなりつまずいたじぶんを罵っていた。



寛子さんと3人の息子たち、お母様が参列



アワードは2003年に始まり、今年が5回目の開催

### "なみある?" 携帯サイトにて、飯島夏樹"THE LOVE STORY" 公開

今年8月、表参道ヒルズ開催された飯島夏樹展、その内容を携帯サイトに最適化し、12月11日に配信スタート。夏樹の軌跡を7つの局面に編集、それぞれにまつわる、貴重な計80余点の写真とストーリー構成。ゆっくりとブラウジングすると、小一時間が過ぎ、その「読後感」が、こころを揺らす。(無料)

アクセス-----  
【i-mode】  
iMenu メニュー/検索 スポーツ マリン/スノー 『なみある?』  
【EZweb】  
カテゴリ検索 スポーツ・レジャー マリン/スノー 『なみある?』  
【Yahoo!ケータイ】  
Yahoo!ケータイ メニューリスト スポーツ マリン/スノ・スキー 『なみある?』

### なみある? サーファーズ・アワード2007 受賞

12月17日、銀座にて、第5回サーファーズ・アワードが開催され、飯島夏樹はじめ7名が表彰された。同アワードは、サーフィン&波情報サイト『なみある?』主催、日本におけるサーフィン、ウインドサーフィンの文化的発展を目的とし、これまで、目的に貢献した、松任谷由実、横山泰介、坂口憲二、中里尚雄(敬称略)ら錚々たる諸士が受賞している。飯島夏樹は「海と生の価値を広く再認識させた」として満票で選ばれた。